

2016 年度 北海道大学 前期 英語

1

出題範囲	長文読解
難易度	★★☆☆☆
所要時間	25分
傾向と対策	難解な表現がなく、構成もわかりやすい読みやすい文章だった。問1の説明問題は親切にも段落を指定してくれているし、選択問題も文章が理解できていれば特に迷う選択肢はなかったのではないかと推察。文章・問題ともに非常に素直で標準的なものだったため、きちんと得点したい。

本文訳

国連は 2050 年までには人類の 66%が都市に住むだろうと推定している。この高い比率は人間がこのように暮らすのが普通であるということを示唆しているかもしれない。しかし、(1)都市の成長は人類の歴史の中で比較的最近の進展である。現生人類（すなわち、解剖学的に私たちに近いと私たちが認めるであろう人）は約 20 万年の間存在してきた。その期間の大部分で狩猟採集の暮らしをしてきた。

都市の発達は 12,000 年くらい前から世界の各地で起こった農業革命に続いて始まったばかりだ。これに関わる基本的な変化は、人間が食糧を探して、移動する動物の群れや植物の繁殖様式をたどって場所から場所へと放浪するのではなく、特定の場所で作物を育てたり動物を飼育したりし始めたことだ。徐々に、人間は大きな部族と一緒に暮らすのではなく家族で分かれて住むようになった。

12,000 年は人間が新しい生活様式に順応するのに長い時間ではない。(2)私たちの感情や本能は、より定住的な農工業的生活様式よりもむしろ、狩猟採集民の生活様式に適している。都市に住むことには、食料や水のすばやい供給、野生動物からの安全、さまざまな医療サービスへのアクセス、便利な交通システムなどの多くの物質的な利点がある。しかし都市環境は狩猟採集をしていた祖先があまり抱えなかったであろう精神的な問題を生み出す。^{うつ}鬱や孤独、人口過密状態の環境に住むことからくるストレスなどである。人間は社会的な動物であるから、例えば長い労働時間などの理由で近しい友人や家族との定期的な接触がないと元気がなくなってしまう。私たちのほとんどは都市に住んでいるが、私たちはそこにおいて本当に幸せなのだろうか。

これを判断するために、イスラエル人の作家ユヴァル・ノア・ハラリは彼の 2014 年の著書『サピエンス』で、過去の狩猟採集民の暮らしを現代の都市生活者の暮らしと比較している。ハラリは狩猟採集民が自由に移動することができた様子を説明している。彼らはいつ（食料を探すために）働くかと誰（彼らの友人たちや家族）と働くかを決めていた。彼らには食器洗いや服のアイロンがけなどの家事をする必要はなく、勘定を払ったり、銀行に行ったり、叱ってくる上司の話を聞いたりする必要もなかった。汚染や交通事故、強盗などの心配もなかった。

狩猟採集民は多彩な食事をしていたし、混みあった状況で暮らしていなかったため感染症はいまより少なかった。狩猟採集民は必要なもののすべてを買うのではなく作らなくてははいけなかったためいろいろな技術をもって、彼ら自身の足しか移動手段がなかったためとても体力があった。彼らはまた周りの環境のことを非常によく知っていた。あなたが今日、家から 100 キロ離れたところに電話、お金、交通手段、食糧や水なしで取り残されたらどうなるか想像してみよう。あなたはパニックになるか？ 生き残れるか？ (3) 私たちが今日では緊急事態とみなすかもしれない状況が、狩猟採集をしていた祖先にとっては日常的な現実だった。

ほとんどの現代人は食糧を自分で探したり生産したりするよりも、食糧と交換できるお金を稼ぐために働く。『サピエンス』でハラリは、今日の都市の労働者が朝早く家を出て、毎日同じ道を通して会話のない地下鉄に乗って、そのあと工場で機械の前の同じ場所に座って何時間も同じ工程を行うかもしれないということを物語る。その労働者はいつ飲食していいか、そしていつ仕事が終わるかを指示される。もしかしたら朝に家を出てから 12 時間後の夜に帰宅し、それから料理して（その日の朝と昼と似たような種類の食べ物かもしれない）、掃除して、洗濯して、うるさくて明るいアパートで安らかに寝ようとしなければならない。

(4) もちろん狩猟採集の暮らしにも不利な点があった。食料の供給が足りない時期があっただろうし、乳児死亡率は高く、医療は高度には発達していなかった。しかし狩猟採集民は精神的健康が良好で、「仕事」の満足度が高く、ほかの人よりも富を多くもつ人がいなかったため嫉妬はほとんどなかった。狩猟採集民の部族の構成員は、自身の生と死が部族のほかの構成員にかかっていたので、互いのことをとてもよく知っていた。それは、知らない人とオフィスで働いている現代人にとっては得るのが難しい感情だ。狩猟採集民だった私たちの祖先は私たちよりも物質的に貧しかったかもしれない (5) が、ほかの見方では、私たちには決して得られないほどの豊かさを もっていたのかもしれない。

解説

(1)

解答例

現生人類が誕生してからの約 20 万年の期間のうちの大半を人は狩猟採集民として生活をしてきて、人が定住するようになり都市が発達したのはたった 12,000 年くらい前の農業革命に続いて始まったことにすぎないから。

都市の発達が人類の歴史の中で「比較的」最近の進歩である理由なので、都市の発達後の期間が、発達前の期間に比べると短いということを書けばいい。第 1、2 段落の内容を使って解答を作成する。

まず第 1 段落の最後の 2 文は、「現生人類は 20 万年前から存在していて、現生人類はその期間の大半を狩猟採集の生活をしてきた」という内容だ。次に第 2 段落の最初の文は、「都市の発達は約 12,000 年前に（世界各地で）起こった農業革命に続いて始まったばかり」という内容だ。この 2 つをまとめて解答はほぼ完成する。

しかしこれだけだと、狩猟採集の生活が終わったことと都市が発達したとの関係がよくわからない。そこで第 2 段落の続きを読むと、農業革命の前後で、食料を探して移動する生活から、定住する生活に変化したとある。農業革命後に定住するようになったから都市が発達したのだ。よって、「定住」というポイントも解答に盛

り込む。

(2)

解答例

私たちの感情や本能は、より定住的な農工業的生活様式よりも、狩猟採集民の生活様式に適している。

A rather than Bはこの文章でしばしば出てくるが、「BよりもA」という意味だ。最後の one は lifestyle のことであり、繰り返しを避けるために one を使っている。settled は「定住した、安定した」といった意味なので、more settled lifestyle は「より定住的な生活様式」や「より安定した生活様式」と訳せる。be suited to は「適している」という意味だ。agricultural-industrial の訳が難しかったかもしれないが、単語と文脈から意味をくみ取って「農業や工業を営む生活様式」のように訳しても許されるだろう。

(3) **正解は A**

選択肢訳

- (A) 日常的な現実
- (B) (今日の私たちにとって) 同じように不可能な負担
- (C) 好都合
- (D) 想像を超える

空欄 a の前後を読むと、今日では緊急事態とみなすような状況が、狩猟採集民だった私たちの祖先にとってはどうであったか、という問題だ。

第 4 段落の 7 文目 Hunter-gatherers were skilled ~ によると、狩猟採集民はいろいろな技術を身につけており体力もあったが、それは彼らが必要なものを自分で作る必要があり、交通手段がないため歩くほかない環境で暮らしていたからだ。また 8 文目によると、彼らは周りの環境のことをとてもよく知っていた。その次の 2 文は、空欄 a を含む文の a situation の例、つまり現代の私たちが緊急事態とみなすような状況の例である。「家から 100 キロ離れた所に電話、お金、交通手段、食べ物、水なしで取り残される」という状況だ。7 文目や 8 文目の内容から狩猟採集民にとってはそのような状況が当たり前だったということがいいのだと容易に推測できるだろう。よって正解は(A)。

ほかの選択肢は、

- (B) 狩猟採集民であった祖先にとっては、電話もお金も交通手段もないのが当たり前だったし、食料も水も普段から自分に手に入れていたため、「不可能な負担」ではない。
- (C) この部分（第 4 段落 7 文目～第 4 段落終わり）の主旨は「狩猟採集民にとって何もない状況は当たり前だった」ということであり、「好都合であった」ということではない。7 文目の Hunter-gatherers were skilled in many ways や they were very physically fit は何もない状況がもたらした利益ではなく、そのような状

況に対応する力を狩猟採集民がもっていたということをいっているだけだ。

(D) 狩猟採集民にとっては想像を超える状況ではなく、むしろ当たり前の現実だった。

(4) 正解は C

選択肢訳

- (A) 結果として
- (B) さらに
- (C) もちろん
- (D) ありそうもなく

まずは空欄 b までの話の流れを確認しよう。

第 3 段落	私たちの感情は狩猟採集の生活に適しているため、都市での生活は精神的な問題を引き起こす。 問題提起：私たちは都市で暮らしていて幸せなのだろうか？
第 4 段落	これを検証するために、ハラリが過去の狩猟採集民の暮らしを現代の都市居住者の暮らしと比較。 狩猟採集民の暮らし： ・自由で義務が少なく、汚染、交通事故、感染症といった問題が少なかった。 ・何もない状況が当たり前だった。
第 5 段落	ほとんどの現代人は働いてお金を稼ぐ。 ハラリによる、現代の都市の労働者の暮らしの描写（否定的）。
第 6 段落 (b)	狩猟採集民の生活様式にも不利な点はあった。

第 5 段落までは狩猟採集の暮らしと都市での暮らしを比較し、前者を肯定し、後者を否定している。これだけだと、狩猟採集の暮らしを勧めているかのようである。しかし空欄 b の直後は「狩猟採集民の生活様式にも不利な点はあった」と、いままでの流れと反対の内容になっている。空欄 b には、唯一反対の内容をつなぐことができる(C) Of course 「もちろん」が入る。

(A) As a result 「結果として」、(B) Furthermore 「さらに」は前後がうまくつながらない。下線部(4)のうしろを読むと実際に狩猟採集民の生活にもマイナス面があったことがわかるから、(D) Unlikely 「ありそうもなく」も不適である。

(5) 正解は B

選択肢訳

- (A) 大きな都市では、狩猟採集民にとって給料の高い仕事を見つけることは難しくなかった。
- (B) 私たちの狩猟採集民の祖先は生活にストレスがほとんどなかった。
- (C) 狩猟採集民の生活様式は食料を集めるのに最も効率的な方法だった。
- (D) 狩猟採集民の生活様式は、部族の構成員同士が互いのことをよく知っていたためとても生産的だった。

狩猟採集民の祖先が、物質的な面を除けば私たちよりも豊かだったといえる理由を問う問題だ。

最終段落の 2～3 文目に、狩猟採集民の生活のよい点が挙げられているから、そこから答えの根拠を見つけばいいだろう。ここに書いてあるのは、「狩猟採集民は精神的健康が良好で、仕事満足度が高く、嫉妬はほとんどなかった」こと、そして「部族の人たちは互いのことをよく知っていた」ことである。(B)は前者に一致し、これが正解。

下線部(5)はこの文章全体の主旨なので、ほかの箇所から根拠を探してもいい。第 3 段落 4 文目 But urban conditions ～「都市環境は、狩猟採集をしていた祖先が抱えることは少なかったであろう精神的な問題（鬱、孤独、人口過密の環境にいることによるストレス）を生み出す」や、第 4 段落の 2 文目～6 文目の「狩猟採集民には自由が多くて義務が少なく、交通事故や感染症などの問題も少なかった」という内容も、狩猟採集民のストレスの少なさを示唆している。それとは対照的に、第 5 段落に描かれている都市生活の苦悩はいずれも狩猟採集の生活には存在しえない、都市生活特有のものだ。

- (A) 狩猟採集民の時代には都市はなかったし、労働してお金を稼ぐこともなかった。狩猟採集民は食料を探して常に移動していたため都市が発達しなかったし（第 2 段落 1,2 文目 The development of ～）、自分で食料や必要なものを探したり作ったりしていたため、それらと交換するためのお金も必要なかったからだ（第 5 段落 1 文目 Most present-day ～）。
- (C) 狩猟採集がほかの方法（農業や購入など）よりも効率的な食料の集め方だという記述はない。また、下線部(5)でいっている「豊かさ」とは物質的な豊かさではなく、精神的な健康や人間関係などの幸せのことである。
- (D) 部族の構成員が互いのことをよく知っていたというのは最終段落 3 文目と一致するが、それによって生産性が高い暮らしをしていたとは書かれていない。また、物質的豊かさである生産性が内容の中心になっている、というところも誤り。

(6) 正解は B D G

選択肢訳

- (A) 狩猟採集民の生活様式は都市の発達によって生じた。
- (B) 全員が同じ水準の富をもっていたため、狩猟採集民はあまり互いを妬むことがなかった。
- (C) 人間の歴史のほとんどの期間、人間は放浪生活よりも固定した場所に住むことを好んだ。

- (D) ハラリは、日々の予定がとても制限されているある工場労働者の鮮明な描写をしている。
- (E) 私たちの狩猟採集民の祖先はいまの私達よりも物質的に豊かだった。
- (F) 著者は田舎での農業的な生活様式を都市での産業的な生活様式と比較している。
- (G) ハラリの本から引用された例たちは、狩猟採集民の生活様式の好ましい面を強調する傾向がある。

まずは正解の選択肢を見ていこう。

- (B) 最終段落 2 文目の But hunter-gatherers experienced ~ very little jealousy, since no one had more than anyone else に一致する。
- (D) 第 5 段落で、ハラリは確かにある工場労働者の堅苦しい日常を詳細に描いている。give a picture of とは「(文章で) 描写する」という意味だ。
- (G) ハラリは狩猟採集民の生活と都市での生活を比較し、前者の好ましい点を強調している。第 4 段落 2~6 文でハラリは、狩猟採集民の生活の好ましい点の例を挙げている。また、第 5 段落の例では都市での生活を否定的に描いているため、裏を返せば対照となる狩猟採集民の生活を肯定している。

誤った選択肢については、

- (A) 第 2 段落によると農業革命を境に狩猟採集民の時代が終わり都市が発達したため誤り。
- (C) 第 1 段落の最後の 2 文にあるように、むしろ狩猟採集民として生活していた期間のほうが長いから誤り。第 2 段落 2 文目にあるとおり狩猟採集民は食料を探して放浪していた。fixed は「固定した」、nomadic は「放浪の」という意味である。
- (E) 物質的には現代の私たちのほうが豊かなので誤り (第 3 段落 3 文目 There are many material advantages to living in a city や最終段落最終文 Our hunter-gatherer ancestors may have been materially poorer than us などより)。be better off は「より裕福である、より幸せである、もっとよい状態である」という意味だ。
- (F) 田舎の農業的生活様式はなく過去の狩猟採集の生活様式を、都市での産業的な生活様式と比較している。

表現

comparatively 「比較的に」

anatomically 「解剖学的に」

migration 「移動する動物の群れ, 渡り」

breed 「飼育する」

tribal 「部族の」

be suited to 「適している」

medical service 「医療」

household chore 「家事」

pay the bills 「勘定を払う」

mugging 「強盗」

varied 「さまざまな, 多彩な」

fit 「健康な」

infant mortality 「乳児死亡率」

(松永尚也, 山藤孝介)

2016 年度 北海道大学 前期 英語

②

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	25分
傾向と対策	使われている語も比較的容易で、具体例も多かったため、わかりやすい文章だったのではないだろうか。問題も解きやすいものが多かった。ただし問2や問4の日本語訳は、下線部を直訳するだけでなく、指示語を補ったり、含みの部分まで訳したりするようにすると、より点数が期待できるので注意してもらいたい。この問題にかかわらず、下線部和訳をする際にはほとんど補っていくことがポイントだ。問5や問6の問題は選択肢に目を通してから文章を読むと解きやすかっただろう。

本文訳

人はみな、おいしくて安全な食べ物を食べたい。しかし、さまざまな文化にさらされることによって、人々の食の安全性や好みに対する姿勢が、必ずしも先天的・生物学的なものではないことが明らかになる。食べ物の調理の仕方やし方に関する思い込みや慣習が、人々が何をどのように食べるのかということについて文化が与える影響を浮き彫りにする。⁽¹⁾例えば、ある文化では、ある種の新鮮な材料をそのまま食べられる、つまり、洗ったり、皮をむいたり、火を通すなどの手順を一切踏まずに食べることができると考えられているかもしれない。一方、ほかの文化では、同じ食材でも食べられるようになる前に何らかの調理が必要かもしれない。

同じ文化圏出身の人がそのような活動や考え方を客観的に見るのは難しいことが多いため、ほかの文化の食習慣を目撃すると驚きを感じることもある。刺身はこの最たる例である。刺身は洗う、さばく、などのいくつかの調理手順を踏み、ある特定の形式で出されるものではあるが、火を通すという工程は踏んでいない。⁽²⁾日本の消費者は、生であるということが刺身の性質に直接関係していると、当たり前のように思っている。それに対し、ほかの文化では、肉と魚は、⁽³⁾食べられるようになるためには焼く、揚げるなど何らかの加熱調理が必要だという慣習的な考え方をもっているかもしれない。これらの文化において刺身は生で、おいしく、安全だとは考えられず、むしろ加熱調理されていない、それゆえ味がどうであれ食べるには危険な可能性があるものとして捉えられる。生卵というのも日本でよく食べられる生の食材だ。ご飯のトッピングやすき焼きをつけるソースなどとして食べられる。しかし、イギリス人やアメリカ人の多くは、卵を食用に適している状態にするためには何らかの加熱調理が必要だと考える。

しかし、ほかの文化的背景をもった人々が特定の食材を食べる方法は、日本人にとっても同じように型破りな方法に捉えられる。例えば、日本人のほとんどがリンゴやブドウの皮を食べない。この場合、食材の調理法の相違点は熱の使用ではなく、食材の一部の除去である。世界の多くの人々がリンゴやブドウの皮をむかずに食べる。

ヨーロッパ人は (4) 「木からリンゴをもいで食べる以上にヘルシーでおいしいことってある？」と考えるかもしれない。しかし、この考え方は大部分の日本人には共有されない。

異なる文化では食の調理法について異なる慣習をもち、おいしいと思われるものが異なることも明らかだ。しかし、一般的な調理方法の慣習、またはある特定の調理手順の欠如の場合もあるが、これらの中には科学的に見て安全でないものがある、ということは疑いようがない。どんなにおいしかろうと、生の肉や魚には、検出できないことが多いサナダムシなどの危険な寄生虫の卵を含んでいることがある。もし鶏の卵がきちんと保管されておらず、長い間消費されずに置いておかれると、サルモネラなどのバクテリアが簡単に生まれてしまう。サルモネラ菌による中毒は基本的に入院が必要になることはないが、幼い子どもや老人にとってはとても危険な場合がある。加えて、リンゴやブドウの皮を食べるのは食物繊維の摂取にはいいかもしれないが、有機栽培でない果物を虫から守るために使われる毒である、殺虫剤を食べてしまうリスクも負うことになる。したがって、文化によって「^{たて}蓼食う虫も好き好き」であるかもしれないが、安全性というのはそれとはまったく別の問題であるため、(5) 文化的に認められている食の生産方法や摂取方法に伴う危険性についていつでも気にかける必要がある。

解説

(1) 正解は C

選択肢訳

- (A) 明らかであるように
- (B) 新鮮であるため
- (C) そのままで
- (D) 食べてはいけないように

(a)を含む文章を見ると、some kinds of fresh ingredients might be considered edible (a), that is, without any kind of preparation like washing, peeling, or heating.となっており、that is 以下で前半の内容を具体的に説明していることがわかる (that is 「すなわち、つまり」)。that is 以下を訳すと、「洗ったり、皮をむいたり、温めたりなどの手順を一切踏まずに食べることができる」となる。つまり食材を「そのまま」食べることができる、ということだ。これに合っているのは(C)。

- (A) (a)に as is clear を入れて前半部分を訳してみると「ある種の新鮮な食材は、誰が見ても明らかのように、食べられる、と考えられるかもしれない」となる。新鮮な食材が食べられるものである、というのは当たり前なことだ。(a)を含む文の前半でいいたいことは、新鮮な食材の「食べられ方」なので、それを説明していない(A)は間違い。
- (B) some kinds of fresh ingredients might be considered edible as is fresh を訳すと「ある種の新鮮な材料が、新鮮であるために食べられると考えられるかもしれない」となる。確かに意味としては通るかもしれないが、that is 以下の内容 (何の手順も踏まずに食べられる) を踏まえられていない。that is 以下では新鮮な食材が「どのような形態で」食べられているのか、ということ述べている箇所であるため、ここでも、新

鮮であるために「生で、そのまま」食べられると考えられる、というようになっている必要がある。

(D) unclean は「(食べ物・動物などが宗教的に) 食べてはいけない・不浄の、汚れた」という意味である。これを(a)に入れてしまうと、considered edible「食べられると考えられる」と合わなくなってしまうので間違い。

(D)が1番おかしいので、これを最初に選択肢から除外するとよいだろう。

(2)

解答例

日本の消費者は、生であるということが刺身の性質に直接関係していると、当たり前のように思っている。

take it for granted that 「(that 以下のことを) 当然と考える」に注目して下線部を訳していく。

Japanese consumers take it for granted that [the quality of sashimi is (directly) related to the fact that it is raw].

このようにして文章を見ると、「日本の消費者は、(that 以下のことを), 当然と考える」と訳せる。

次に that 以下を訳していくと「刺身の性質は、それが生であるということに直接関係している」となる。注意する必要があるのは、ここでの quality はよく訳される「品質」という意味ではなく、「性質」や「特性」という意味であるということだ。これは前後の文脈において魚がどのように調理されるかという話題がなされており、ここでは刺身が生であるという「性質」として訳したほうが文脈に沿うからだ。

以上をまとめると「日本の消費者は、刺身の性質はそれが生であるということに直接関係しているということ」を、当たり前のこととして考えている」となる。

raw の意味がわからない場合でも下線部の直前の文で、「刺身は、洗う、さばく、などのいくつかの調理手順を踏み、ある特定の形式で提示されるものではあるが、火を通すという工程は踏んでいない。」とあることから、刺身は加熱されずに食べられる、つまり生で食べられるということが強調されているとわかる。

(3) **正解は for**

in order (b) them to be ~ は、in order to V 「V するために」というイディオムに(b) them が挿入されている。こここの them は下線部を含む文にある meat and fish であり、to 不定詞の意味上の主語となっている。そのため、空欄に入るのは for となる。

下線部を含む文の訳としては「肉や魚は、食べられるようになるために、焼く・揚げるなど何らかの加熱処理が必要だというのが慣習的な考え方だ」となる。

(4)

解答例

木からリンゴを木からもいで食べる以上に健康的でおいしいことはあるだろうか（いや、ない）。

What could be more healthy and delicious than 「than 以下より健康的でおいしいことはあるだろうか」

picking an apple from the tree and eating it 「リンゴを木からもいで食べること」

となるのでまとめると、「リンゴを木からもいで食べることほど、健康的でおいしいものはあるだろうか？」となる。意味的には「あるだろうか、いや、ない」と反語の意味も含んでいるので、心配だったら文末に「いや、ない」とつけておいてもよいだろう。

(5) **正解は A****選択肢訳**

- (A) 生卵や皮ごと果物を食べることは、有害な細菌や殺虫剤が理由で、ある条件においては危険なこともある。
- (B) リンゴやブドウを皮ごと食べると体重増加につながることもある。
- (C) 幼児や老人のみ、特定のバクテリアに弱い。
- (D) 何がおいしいものと考えられているのかは、実は食品の調理に関する深い理解にもとづく。

下線部(5)を訳すと「文化的に認められている食の生産方法や摂取方法に伴う危険性についていつも気にしている必要がある」となっている。この理由として適切なものを選ぶ。

まず(D)は明らかに誤り。下線部の直前で「文化ごとの食の好みはさまざまだが、それと安全性はまったく別の問題だ」と述べており、さらに最終段落では、「文化圏ごとの食の慣習の中には危険なものがある」ということを述べているので、食の好み「食品調理の深い理解にもとづく」ものだとすると筆者の主張とはかみ合わない。

また(B)について、リンゴやブドウを皮ごと食べると危険な理由は最後から 2 番目の文章で書かれているが、ここでは果物を皮ごと食べると殺虫剤を摂取する危険性がある、と述べているのであり、体重増加については触れられていないため、(B)は間違い。

(C)については、最後から 3 番目の文で「サルモネラ菌による中毒は基本的に入院が必要になることはないが、幼い子どもや老人にとってはとても危険な場合がある」とあり、確かに正しいが、下線部の理由としてはふさわしくない。

(A)は押さえておくべき 2 点がきちんと含まれているため正解。最終段落では、前半で、文化圏ごとのさまざまな食の好みによる食品調理の慣習の中には科学的に見ると危険な物もあると述べたあと、中盤で生卵の危険性（サルモネラ菌などの細菌を摂取してしまう）、後半で果物を皮ごと食べることの危険性（殺虫剤を摂取してしまう）を例として挙げている。(A)にはこの例の両方が含まれているため最も適切。

(6) 正解は B C D

選択肢訳

- (A) 筆者は「食品調理過程」を、もっぱら火の使用という意味で用いている。
- (B) 文化的に確立した食品摂取方法は、科学原理にもとづく食の安全性と矛盾するかもしれない。
- (C) 日本以外の食文化のうちのいくつかでは、生魚は食べられる食材に分類されない。
- (D) ほかの文化との接触がほとんどない人は、自身の食関連の慣習を自然で標準的なものだと考えがちである。
- (E) どのような食品調理であっても、マスターするには繰り返し練習することが求められる。
- (F) 人が何をどのように食べるのかは本能のみが決定する。
- (G) 世界中のすべての文化において、果物を皮ごと食べることを自然と考える。

- (A) 誤り。food preparation process は加熱処理以外にも washing, peeling (第1段落, 下線部(1), 生の食材について), cleaning, cutting (第2段落, 第2文, 刺身について), removal of part of the foodstuff (第3段落, 第3文, 果物の皮について) が挙げられている。
- (B) 正しい。最終段落が該当。最終段落, 第2文に「しかし, 一般的な調理方法の慣習, またはある特定の調理手順の欠如の場合もあるが, これらの中には科学的に見て安全でないものがある, ということに疑いようがない」とある。
- (C) 正しい。第2段落が該当。第2段落, 第5文「それに対し, ほかの文化では, 肉と魚は, 食べられるようになるためには焼く, 揚げるなど何らかの加熱調理が必要だという慣習的な考え方をもっているかもしれない」とあることから, 加熱調理をしていない生魚(刺身)は食べられるものには分類されていないことがわかる。
- (D) 正しい。第1段落, 第2文「しかし, さまざまな文化にさらされることによって, 人々の食の安全性や好みに対する姿勢が, 必ずしも先天的・生物学的なものではないことが明らかになる」とあるが, これを言い換えると, 「さまざまな文化にさらされないと, 人々の食の安全性や好みに対する姿勢が, 先天的・生物学的なものだと考える」ということになる。

exposure to different cultures reveals how people's attitudes towards food safety and taste are not all innate or biological.

People having little contact with other cultures tend to view their own food-related conventions as natural and standard.

とこのような形で対応していることがわかる。(同じ下線のものが反対の意味になっている。)

- (E) 誤り。食品調理をマスターすることに関する記述はない。
- (F) 誤り。第1段落, 第3文で「食べ物の調理法や提示法に関する思い込みや慣習が, 人々が何をどのように食べるのかということについて文化が与える影響を浮き彫りにする」とあることから, 人々が何をどのように食べるのか, ということは instinct 本能だけではなく culture 文化も関係していることがわかる。

- (G) 誤り。第 3 段落が該当箇所。確かに第 3 段落, 第 4 文で People in much of the world eat apples and grapes without peeling them と世界のほとんどの人が果物を皮ごと食べるといっているが, 第 6 文で this way of thinking is not shared by a large number of Japanese と日本人の多くが果物を皮ごと食べないといっている。「世界中の すべての国において」という部分が誤り。

表現

exposure 「さらされていること, (人前や社会に) 出る (触れる) こと」

innate 「生まれもった, 先天性の」

biological 「生物学の, 生物学上の」

practice 「(習慣的な) 慣行・慣例, (日常的な) 活動・行為」

take it for granted 「当然と考える」

raw 「生の, 加工していない」

conventional 「慣習の, 伝統の」

fit for A 「A 向きの」

convention 「慣習, しきたり」

parasite 「寄生生物」

tapeworm 「サナダムシ」

undetectable 「検知 (検出) できない」

salmonella 「サルモネラ菌」

hospitalization 「入院」

dietary fiber 「食物繊維」

insecticide 「殺虫剤」

there is no accounting for taste 「^{たまで} 食う虫も好き好き」

(松永尚也, 山藤孝介)

2016 年度 北海道大学 前期 英語

3

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	<p>文章自体は比較的短く、語彙も簡単だったため、わかりやすかったのではないだろうか。質問 C のような文章を書かせる問題は毎年出ているので、文章の書き方を覚えて、例題を解き、自分のスタイルを確立しておくといいたい。</p> <p>質問 A, B ともに文中の表現を言い換えればよいものだったので、そのようなパラフレーズの練習もしておくといいたい。</p>

本文訳

ロサンゼルスで運転する人々は、年間約 90 時間渋滞に巻き込まれている。ほぼ丸 4 日だ。渋滞に巻き込まれた人全員がおそらく以下の 2 つのことを考えているだろう。第 1 に、なぜこんなに車が多いのか。第 2 に、みんなどこに行こうとしているのか。

平日、ほとんどの車は会社から、または会社へ向かっており、そのほとんどには 1 人しか乗っていない。車は中で座っている人よりはるかに長く幅が広いため、ほとんどが乗車人数 1 人の車で形成されている渋滞というのはものすごい空間の無駄遣いだ。しかし、乗車人数が 1 人だろうが 5 人だろうが、車は人間の重さよりも、車自身の重さを運ぶのにエネルギーを使う。さらに、渋滞で止まっていたとしても、エンジンを切っていないために車は燃料を消費している。

このような非効率性は、空間、燃料、時間、汚染、という意味においてコストのかかるものだし、感情面でみると、ストレス、怒り、不満を引き起こす。では都市において車で仕事に行くのがそんなに無駄だというのなら、ほかにはどのような選択肢があるのだろうか。人々に公共の交通機関を使うように促すのは状態をそれほど改善させないかもしれない。というのも、電車、地下鉄、路面電車、バスも車と同じく非効率的で、汚染を引き起こし、いつも満員なわけではないから燃料を無駄遣いする。

それに対して、自転車は史上最高に効率的な交通手段だ。つまり、エネルギー投入量に対する距離出量に関して、自転車は車、飛行機、馬、徒歩であれ何よりも生産的なのだ。自転車は車よりも安く、道路では車よりもスペースをとらない。汚染もしない。止まっているときに燃料も無駄遣いしない。さらにいうと、人間の健康にもプラスになる。渋滞中の車の中でイライラしながら座っているよりも、心臓を含めた筋肉を動かしているほうがよっぽど健康的だ。

よって都市で仕事に行くときには、自転車に乗ることが当然の選択のように思える。毎日仕事に自転車で行く必要はない。ただ、彼らが自転車に乗るすべての日において、都市の交通システムはもっと効率的になり、その

結果都市の経済、環境衛生、公益も改善される。

以下の A から C の質問に英語で答えよ。文章中の語や考えを使ってもよいが、文をそのまま引用してはならない。

解説

A

解答例

how many people / the number of people who
if (whether) it is moving (stationary)

問題文訳

以下の文を完成させよ。

この文章によると、車は車に乗っている _____ に関わらず車自身の重さを運ばなくてはならないために非効率的だ。もしエンジンがついていれば、 _____ かどうかにかかわらず、渋滞中にも燃料を無駄にってしまう。

この内容に該当するのは第 2 段落の後半 But whether it contains ~ から since the engine is still on の部分である。

regardless of 以下は whether it contains one person or five people を言い換えればよい。regardless が whether の、it contains が travelling in it の言い換えになっているので、空欄箇所は one person or five people の言い換えになる。意味としては、「乗車人数が 1 人であれ 5 人であれ変わらない」ということなので、要するに「何人乗っていようと、乗車人数は関係ない」ということがいいたいのだ。よって空欄には how many people や the number of people who が入る。regardless of から通して質問文を訳してみると、「車に何人乗っていようと関係ない / 車に乗っている人数は関係ない」となる。

2 番目の空欄を含む文は In addition 以下の文の言い換えになっている。対応している部分を下線で示すと以下ようになる。

In addition, even when stationary in a traffic jam, cars are using up fuel, since the engine is still on.

If the engine is still on, a car also wastes fuel in a traffic jam, no matter _____ or not.

よって空欄部分は even when stationary の言い換えになっている。「動いているかどうか」「静止しているかどうか」という内容になっていけばいいので、if (whether) it is moving (stationary) が正解となる。no matter if (whether) は Yes / No クエスチョンを文中におきたいときに使われる。

B

解答例

1. It exercises muscles including the heart.
2. It causes less stress, anger and unhappiness. / You don't need to sit angrily in a car in a traffic jam.

問題文訳

車を運転するよりも自転車に乗ったほうが健康によい理由を、文章の中から2つ挙げよ。

自転車と車を比較している箇所は第4段落にあり、自転車が車よりも優れている理由は全部で6つ挙げられている。

- ・ in terms of distance output for energy input, the bicycle is more productive than anything else 「エネルギー投入量に対する距離出量に関して、自転車は何よりも生産的なのだ」
- ・ bikes are cheaper than cars 「車よりも安い」
- ・ they take up less space on roads 「道路で場所を取らない」
- ・ they cause no pollution 「環境汚染しない」
- ・ they don't waste fuel when stationary 「静止しているときに燃料を無駄にしない」
- ・ they benefit human health: it is far healthier to be exercising muscles—including the heart—rather than sitting angrily in a car in a traffic jam 「健康によい。渋滞中の車の中でイライラしているより、自転車に乗って心臓を含めた筋肉を動かしているほうが体によい」

このうち健康に関係しているのは6番目の理由だ。よってこの1つの文章を言い換えられればよい。

また、6番目の理由は、前半の「自転車に乗ると心臓を含めた筋肉を動かせる」と後半の「渋滞中の車の中ではイライラしてしまう」に分けることが可能だ。つまり前半は身体的な面で、後半は心理的な面で健康によいということを述べているので、これらの内容を英語にまとめればよい。

前半は It exercises muscles including the heart.

後半は第3段落第1文の内容を用いて It causes less stress, anger and unhappiness. とするか、あるいは6番目の理由に書かれている内容を用いて You don't need to sit angrily in a car in a traffic jam. などとすればよい。

C

解答例

I am against the idea that everyone should ride a bike to work. I have two reasons to support my idea. Firstly, many people living in a city live far from their workplaces, so commuting with a bicycle may take up too much time. Secondly, bicycles are easily affected by the weather. In cities like Sapporo, there would be a lot of snow in winter, so it would be dangerous to commute by bike. Therefore, although bicycles may have its benefits, going to work by bike in a city can be impractical from time to time. (96 words)

訳：私は、みな自転車通勤したほうが良いという考えに反対である。私の考えを支持する2つの理由がある。1つ目は、都市部では仕事場から離れた所に住んでいる人も多いので、自転車通勤には時間がかかりすぎる。2つ目は、自転車は天候に左右されやすい。例えば、札幌などの都市では自転車通勤はとても危険だ。それゆえ、自転車にはよい点もあるが、自転車通勤は非現実的な場合もある。

問題文訳

筆者は都市に住む人はみな仕事に行く際に自転車に乗ったほうが良いと提案している。約70から100語でこの提案に反対せよ。最低でも2つの理由を挙げよ。(100語以上書いたとしても減点されない。)

このように自分の意見を述べる文章を書く際には、文章構成をまず組み立てることが必要だ。

Introduction (導入) - Body1 (本文1) - Body2 (本文2) - Conclusion (結論) の形でまとめられると読みやすい文章が書けるので、この形を覚えてほしい。

Introduction では自分がある意見に対し賛成か反対かを述べ(この場合は反対)、理由が何個あるのか(この場合は2つ以上)を示す。

Body では理由を1つずつ挙げる。それぞれのBodyの最初に自分が1番いいたいことを述べ、そのあとに具体例を書くとよい。また、今回のように字数が少ないものだと、段落分けができないかもしれないので、Bodyを分けていることを示すような語、例えば Firstly, Secondly などを入れると文章が読みやすくなるだろう。

最後の Conclusion ではもう1度自分の意見を表明するとよい。

これはあくまでも字数が少ない場合の文章の書き方だが、字数が多くても英語の文章の構成は基本的にこのような形をとるので、ぜひ覚えてほしい。

Introduction (導入)

今回は「提案に反対せよ」と指定があるため、「私は提案(都市に住む人はみな自転車通勤したほうが良い)に反対する」という文から始める。例えば、I am against the idea that everyone who lives in a city should go to work by bicycle. や I do not think it is a good idea for people living in a city to travel to work by bicycle. などと書ける。また、なるべく1人称を避けて書きたい場合などは Riding a bicycle to work may not be the best idea for people living in a city. と書けばよい。I have two reasons to support my idea. と理由が2つあることを加えてもよい。

Body (本文)

自転車に乗ることが好まれない理由を考えてみる。今回は最低でも2つとあるのでBodyは2つ以上つくる必要がある。

・都市部では仕事場から離れた所に住んでいる人も多いので、自転車通勤には時間がかかりすぎる。

Many people living in a city live far from their workplaces, so commuting with a bicycle may take up too

much time.

- ・都市部では人口が多いために通勤時に自転車であふれかえってしまう可能性がある。

Since there are many people living in a city, if everyone goes to work by bike, the city may overflow with bicycles.

- ・自転車は天候に左右されやすい。例えば札幌などの都市では自転車通勤はとても危険だ。

Bicycles are easily affected by the weather. In cities like Sapporo, there would be a lot of snow in winter and it would be dangerous to commute by bike.

などが理由として挙げられる。

Conclusion (結論)

最後にもう 1 度提案に反対しておく。Bicycles may have its benefits, but going to work by bike in a city can be impractical from time to time. 「自転車にはいい点もあるが、自転車通勤は非現実的な場合もある」というようなことをいっておくとよいだろう。

以上をまとめると解答例のようになる。

表現

stuck in 「はまり込んでいる」

traffic jam 「渋滞」

occupants 「(乗り物などに)乗っている人」

stationary 「動かない」

output 「産出量」

input 「投入量, エネルギー」

(松永尚也, 山藤孝介)

2016 年度 北海道大学 前期 英語

4

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	単語を、単体としての意味だけではなく、熟語や、文章の中でどのように使われるか理解できているかを問う問題が多かった。単語を覚えるときは例文も見るとよいだろう。要約文を読むだけでも文法的な観点などから解ける問題が実は多いため、ラジオ番組の SCRIPT は軽く読んで、問題を解くときに該当する箇所を読み返せばよいだろう。

本文訳

以下のラジオ番組の SCRIPT を読みなさい。次にその要約文を読みなさい。要約文は 12 個の空欄を含む。それぞれの空欄について、リストから最も適切な選択肢を選びなさい。解答用紙に、あなたが選んだ選択肢に対応する文字(A,B,C か D)を書きなさい。

ラジオアナウンサー：今回も DBC 番組『思考パターン』によろこそ。今日はジャズ音楽の人気について対談します。人気は上昇しているのでしょうか。もしそうであるならば、どのように上昇しているのでしょうか。幸いなことにこの話題に関する専門家のお 2 人に対談に参加するためにこのスタジオに来ていただいています。お 2 人は異なる観点をもって今日の議論にお越しくださっています。こちらにロンドンから DJ ライト・ストーン……。

DJ ライト・ストーン：こんにちは、お招きいただきありがとうございます。

アナウンサー：……そしてニューヨーク大学からは音楽学のステファニー・スターリング教授にお越しいただいています。

ステファニー・スターリング教授：こんにちは、ここに来られて嬉しいです。

アナウンサー：ここ数年でジャズに対する関心が上がったように思われます。ジャズコーヒーショップやジャズカフェの数が増えました。ジャズの CD の売り上げが上昇しました。そして、今年の最高興行収入を収めたハリウッドの大ヒット映画『ハードポップ』は、おもにこの音楽ジャンルの歴史についての内容です。教授、これをどう説明なさいますか。

教授：この音楽形態が人気だということは明らかだと思いますが、人気でなかったこ

とが果たして本当にあったのでしょうか。ジャズ音楽が消えて、いま再び現れたとはいえません。ジャズをおもに流しているコーヒーショップの数は増えました。しかし、コーヒーショップの数が全体的に増えたのではないのでしょうか。CDの売り上げ増加の件を見ますと、インターネット上で売れた曲のことをおっしゃっているのだと思うのですが……。

アナウンサー：はい、そのとおりです。

教授：ええ、ジャズはレコード音楽の初期からさまざまな形で存在してきました。年齢を問わずたくさんの方が、その時に存在していて人気がある媒体をとおして音楽を消費します。だからより多くのジャズ売り上げが現在みられるのではないかと思いますね。

アナウンサー：それでは、人気は上昇していないのですか。

教授：していません。人々の音楽を消費する方法が新しくなっているに過ぎません。この消費の多くは私が再消費と呼ぶもの、つまり例えばカセットからCD、CDからMP3へと、人々がすでにもっている音楽を別の形式で購入することです。しかし消費方法の推移はジャズの人気の上昇とはほとんど関係がありません。それは単にますますグローバルでネット上のものになった市場において録音技術や消費形態が変化してきている結果です。

DJ：部分的には賛成します。おっしゃるとおり、確かに現在の関心の一部は再消費です。さらに、関心の一部は表面的です。というのも、コーヒーショップは時間を過ごしてお金を使うことを楽しめるような環境をつくる曲を流します。ジャズのBGMはそのような空間をつくるのに役立ちます。コーヒーショップのオーナーは、ヘヴィ・パンクやファンクの曲を流していたらコーヒーを飲むおばあちゃんが多く来てくれることは望めませんよね。

（アナウンサーと教授が笑う）

しかし、若者たちの間で伝統的なジャズに対する関心が高まっているとは思いますが。例えば再消費は『ハードポップ』の成功の理由を説明できませんし……。

アナウンサー：しかし映画は音楽の歴史についてですから……。

DJ：ええ、でもそれはこの音楽が、現在子どもたちが興味をもっていることに巨大な影響力をもつ、特に強力なアメリカの芸術形態になった経緯についてです。私たちははっきりと、ジャズ音楽のクラブやショーに実際に足を運ぶ人々の数が増えているのを目の当たりにしています。人気は周期的に訪れますが、ジャズの人気が戻ってきているのを目の当たりにしているのは、若者たちがクラシックジャズに強く影響を受けている音楽を聴いているからなのです。彼らは由

来を知りたがっています。よって再消費は売り上げの一部を占めるかもしれませんが、それが全貌ではありません。過去は常に現在に影響を与えるから、いま関心が高まっているのです。そして……。

教授：私は納得していません……。

アナウンサー：すみません、いったんそこまでにさせていただきます。DBC ニュースのあとすぐ、『思考パターン』の続きに戻ってきます。

ジャズ音楽の人気は上昇しているのだろうか。これがこのラジオ番組が注目している根本的な疑問である。例えばお店やカフェなど、日常生活においてジャズがより目立つようになったのは明らかだ。さらに、この年の最も人気の映画はジャズについてのもので、ジャズの CD の売り上げは上昇している。この質問を取り扱うために、ロンドンの DJ とニューヨークの教授がインタビューされている。

どちらのゲストもジャズが人気の音楽ジャンルであることを否定しない一方で、彼らはこの状況に対して異なる理由を示している。スターリング教授はジャズの存在が増えたことは物質的な点から説明できると提唱している。簡単にいうと、今日ではカフェが増えているから、それらのいくつかがジャズ音楽を流すことを選ぶことは驚くべきことではないはずだ。また、録音の形式が変わるにつれて、人々が音楽を消費する方法も変わる。このように人々は音楽を再消費、すなわち、古い音楽をより新しい形式で買う傾向になる。DJ ライト・ストーンは、ジャズがくつろげるコーヒーショップの雰囲気貢献する音楽スタイルで、ジャズ音楽の消費の 1 部はおそらく再消費によるものであると賛成している。それでも、これは若者の間の伝統的なジャズの人気を部分的にしか説明しきれない。ジャズの人気は明白に上昇している。これを指し示すことの 1 つはその音楽の歴史に対する関心の高まりだ。DJ にとっては、映画『ハードコア』の成功と、ジャズのクラブやショーに行くことを選ぶ人の数がより大きくなっていることは、アメリカで生まれたこの音楽ジャンルへのまったく新しい、復活したものではない関心を明らかに説明している。

解説

(1) 正解は D

空欄周囲を見てみると、Is the popularity of jazz music increasing? This is the fundamental question that the radio program (1). 「ジャズの人気は高まっているのでしょうか。これがそのラジオ番組が(1)する根本的な質問です。」となっている。つまり、このラジオ番組が「ジャズの人気は高まっているのか」という疑問に対し、どのような行動・反応をとっているかを考えればよい。

また、This is the fundamental question that the radio program (1). の部分について、先行詞を戻して The radio program (1) the fundamental question. というふう読み替えると文法的な整合性もわかりやすくなるだろう。

(D) focus on は「注目する、焦点を当てる」という意。ラジオアナウンサーの最初の発言の第 2～3 文から、ジャズの人気が高まっているかということについて話し合われることが示されている。また実際に、教授と

DJ のそれぞれの主張もジャズの人気について触れた内容となっている。よって(D)はこの文脈に当てはまり、正解となる。

- (A) 質問をすることは ask a question という。say a question とはいわない。
 (B) reflect to という熟語はない。reflect on 「思慮する, 熟考する; 反省する, 回顧する」と間違えやすいので気をつけよう。
 (C) doubt は「疑う」という意味だ。質問を疑っているわけではないので誤り。

(2) **正解は D**

sales of jazz recordings are (2) the rise から, on the rise 「上昇して」という熟語を思い出そう。文法的にも文脈にも合うため, 正解は(D) on。この熟語を知らなかった人はこの機会に覚えておこう。(A) in the rise, (B) of the rise, (C) under the rise という熟語はいずれも存在しない。

(3) **正解は C**

空欄の前後は To (3) the question, a disc jockey from London and a professor from New York are interviewed. 「この質問を(3)するために, ロンドンの DJ とニューヨークの教授がインタビューされています。」となっている。the question は 1 文目の Is the popularity of jazz music increasing? を指している。

deal a question, talk a question とはいわないので(B)と(D)は消去できる。(deal with a question なら「質問を取り扱う」という意味になるので可。) 残る(A) の ask なら「質問をする」, (C) の address なら「質問を取り扱う」という意味になる。どちらも当てはまるように思うかもしれないが, ゲストを招いた理由は「質問をする」ことではなく, この質問を取り扱って議論することである(ラジオアナウンサーの最初の発言の第 2 文においてジャズ音楽の人気について chat about 「話し合う」とあり, 単純にこの疑問を質問するわけではなく, 議論することを目的としていると読み取れる)。よって, (A) の ask は不適切である。以上より(A)が除外されて正解は(C)。

(4) **正解は B**

2 人のゲストが, ジャズが人気であることを否定しているかどうかを検討すればよい。空欄を含む文を見ると While (4) guest denies that jazz is a popular form of music, they suggest different reasons for this situation 「(4)ゲストがジャズが人気な音楽の形であることを否定する(しない)一方で, 彼らはこの状況に対して異なる理由を提案しています」とある。While ~ 「~の(する)一方で」を用いて, 主節の different 「異なる」ことと対比しているので, ジャズが人気であるかについては 2 人が同じ意見, つまりどちらも否定しているか, どちらも否定していないかであることが読み取れる。したがって(D) either 「どちらか一方」を除いて(A) both 「どちらも」, (B) neither 「どちらも~ない」, (C) each 「それぞれの」に絞れる。教授の 2 番目の発言の 1 文目 I think it is clear that this form of music is popular より, 教授はジャズが人気であると認めている。ここで注意してほしいのは, ラジオアナウンサー 5 番目の発言から教授の 4 番目の発言の最初にかけて (So,

it's not growing in popularity? —No.) より教授は「ジャズの人気が上昇している」ということは否定しているが、上昇していなくても人気自体はあると思っているということだ。DJ もジャズの人気を否定している箇所はないし、彼はジャズの人気が上昇していると思っている (DJ の 4 番目の発言の最後から 2 文目など)。教授も DJ の人気を否定していないので、答えは(B) neither。

(A) both 「どちらも」 (C) each 「それぞれの」では、教授も DJ もジャズの人気を否定していることになってしまうので誤り。

(5) 正解は D

空欄を含む文は Professor Stirling suggests that the increased (5) of jazz can be accounted for in material terms. 「スターリング教授はジャズの(5)が増えたことは物質的な点から説明できると提唱している」である。教授の 2,3 番目の発言にあるように、彼はコーヒーショップ自体が増えたためジャズを流すコーヒーショップも増えたということや、インターネットで音楽を買う人が増えたのでジャズのインターネット上の売り上げも上がったということを提唱している。(D) presence 「存在, あること」を空欄に入れると上記のようにジャズがいろんな形でより多くの人が耳にするようになったという意味になり文脈に合うので正解。

(A) opinion of jazz 「ジャズについての意見」が増えた話はしていないので誤り。

(B) attention of jazz だとジャズが何かに注目しているような意味になってしまう。「ジャズへの注目」なら attention to jazz が適切。

(C) 「ジャズへの関心」なら interest of jazz ではなく interest in jazz が適切。

(B)も(C)も前置詞さえ合っていれば間違いではなかったので、惑わされずに空欄前後をしっかりと見極めることが大切である。

(6) 正解は C

be surprise のように動詞の原型が 2 つ以上続くことはないので、B は誤り。ought to be は「きっと～だろう、～のはずだ」という意味だ。it ought to be (6) that ~ は、it が形式主語、that 節が真の主語であり、「～ことは(6)はずだ」という訳になる。主語が人などではないため、(D) unsurprised 「驚いていない」は不適。したがって(A) surprising 「驚くべき」と(C) unsurprising 「驚くほどではない」に絞られる。(A)と(C)をそれぞれ入れて考えてみたとき、カフェが増えているなか、そのいくつかはジャズを流すことは驚くべきことではないだろう、と考えたほうが意味は通る。よって答えは(C)。

(7) 正解は A

空欄の前後は as recording formats change, the (7) people consume music also changes. 「録音の形式が変わるにつれて、人々が音楽を消費する(7)も変わる」である。ラジオ番組における教授の 4 番目の発言で、People are merely updating how they consume music. (中略) It is simply an outcome of how recording

technology and consumption patterns are changing とある。この部分の意味は全訳を参照してほしいが、(7)の前後の文と対応していることが読み取れる。how they consume music の部分が the (7) people consume music と対応しており、how を the way というふうに言い換えれば意味が通る。よって正解は(A)。

(8) **正解は B**

空欄を含む箇所は DJ Light Stone agrees that jazz is a style of music that (8) a relaxing coffee shop atmosphere and that ~ 「DJ ライト・ストーンは、ジャズがくつろげるコーヒーショップの雰囲気(8)音楽スタイルであって、~ということに賛成する」である。空欄に入る選択肢は(A) suits to 「~に合う」、(B) contributes to 「~に貢献する」、(C) applies to 「~に適用する」、(D) is created by 「~によって生み出される」だ。ここでラジオ番組における DJ の 2 番目の発言を見ると、「ジャズの BGM はコーヒーショップの雰囲気を心地よいものにする」といった内容のことを話しているのです、正解は B。

(A)の suit to に関して、上述の DJ の発言より「ジャズがよい雰囲気に適している」のではなく、「ジャズがよい雰囲気をつくる」というのがポイントなので、文脈面から(B)のほうが適切。

(C)は意味が通らない。

(D)については、ジャズがよい雰囲気によってつくられるのではない。ジャズがよい雰囲気をつくるのだ。

(9) **正解は A**

空欄を含む箇所は DJ Light Stone agrees ~ that some proportion of the consumption of jazz music is likely (9) re-consumption 「DJ ライト・ストーンは、ジャズ音楽の消費の一部はたぶん再消費(9)だと賛成している」となっている。ここでは likely は「たぶん、恐らく」という意味の副詞であることに注意しよう。選択肢の意味はそれぞれ、be due to A 「A による、A が原因である」、be in favor of A 「A を好んでいる」、owe A to B (= owe B A) 「B に A の借りがあある」、in spite of A 「A にもかかわらず」である。C owe to の owe は動詞であり、is (likely) owe ~ のようになるのはおかしいため誤り。owing to A 「A に起因して」という表現と混同しないように注意しよう。D の in spite of を入れるなら空欄の前が文として成り立っていないからいけないため、likely を「もっともらしい、ありそうな」という意味の形容詞として likely までのところで文が成立していると考え (some proportion of the consumption of jazz music is likely で完全文とみなす) しかないが、そうすると「再消費にもかかわらず、ジャズ音楽の消費の一部はもっともらしい」という意味のわからない文になってしまうので誤り。

ラジオ番組を振り返ると、「最近のジャズ音楽の消費の大部分は再消費だ」と言っている教授に対して、DJ は It is true that some current interest is re-consumption, as you say. 「おっしゃるとおり、確かに現在の関心の 1 部は再消費です。」と賛成している。ジャズ音楽の消費の一部は再消費によるものだとして賛成しているため、正解は(A) due to だ。

(10) 正解は A

空欄には直後の名詞 explanation を修飾する形容詞が入るので、副詞である(B) partly 「一部分は」は誤り。空欄を含む文は Nevertheless, this provides only a (10) explanation for the popularity of traditional jazz amongst young people. 「それでも、これは若者の間の伝統的なジャズの人気の(10)説明しか与えない。」となっている。this はその前文の内容、つまり「ジャズ音楽への関心の一部は再消費である」ということを指している。(これはラジオ番組の DJ の 2 番目の発言の第 1~2 文に対応していることを考えるとわかりやすい。) ラジオ番組の DJ の 2,3 番目の発言より、彼は「若者の間のジャズの人気は、再消費や表面的な関心によるものだけではなく、実際にジャズに関心をもつ若者が増えている」と考えている。したがって(A) partial 「部分的な」が正解。(C) particular 「特定の」、(D) parting 「別れの」では意味が通らない。

(11) 正解は C

空欄を含む箇所は The popularity of jazz is undeniably growing. One (11) of this is an increasing interest in the history of the music. 「ジャズの人気は明白に上昇している。この(11)の 1 つはジャズの歴史に対する関心の高まりだ。」である。空欄直後の this は「ジャズの人気が明白に上昇していること」を指している。「ジャズの歴史に対する関心の高まり」が「ジャズの人気が明白に上昇していること」の何であるかということを考えればよい。

「A の理由」は reason of A ではなく reason for A であるので、(A) reason は×。(ただし、by reason of A 「A の理由で」という用法はある。)

ほかの選択肢を入れると、(B)の theory of this 「これに関する理論、説」、(C)の indication of this 「これを指し示すこと」、(D)の proposal of this 「この提案」となる。文脈に合う(C)の indication が正解。

(B) 空欄前文「ジャズの人気は明白に上昇している」というのは事実であり、説や理論といった類のものではないので不適。

(D) proposal の「提案」という意味は indication の「指し示すこと、暗示すること」と方向性は似ているかもしれないが、「提案」は動作主がいなければできない一方で、データなどの無機物でも「指し示す」ことや「暗示する」ことはできる。よって、この文には「提案」することのできる主体が登場しないこと、そして indication と違って proposal は一般的には前置詞 of でなく for をとるほうが一般的であることから正解は(D)でなく(C)だといえる。なお、proposal of marriage 「結婚の申し出」という表現もあるように、of を用いる例がまったくないわけではない。

(12) 正解は C

選択肢の意味はそれぞれ(A) argue 「~を論じる」、(B) lead to 「~につながる」、(C) illustrate 「~を説明する」、(D) produce 「~をつくる」である。空欄を含む文を訳すと「DJ にとっては、映画『ハードポップ』の成功と、ジャズのクラブやショーに行くことを選ぶ人の数がより大きくなっていることは、アメリカで生まれたこ

の音楽ジャンルへの新しくて、復活したものではない関心を明らかに(12)。」となる。ラジオ番組におけるDJの2,3番目の発言を見ると、彼はジャズの人気の高まりの根拠として、『ハードホップ』の成功やジャズのクラブやショーに行く人の増加を挙げている。よって(C)が適切。

(A) argueの主語は通常人であるので誤り。

(B),(C) 『ハードホップ』の成功やジャズのクラブやショーに行く人の増加は、ジャズへの関心の高まりの原因ではなく結果であるので誤り。

表現

top-grossing 「興行収入トップの」

blockbuster 「大ヒット映画」

primarily 「主として」

predominantly 「おもに」

mode 「方法」

marketplace 「市場」

superficial 「表面的な」

hang out 「ゆっくり過ごす」

amongst A 「Aの間で」

account for 「説明する, 占める」

whole picture 「全貌, 全容」

fundamental 「根本的な」

prominent 「目立つ」

opt to V 「Vすることを選ぶ」

(松永尚也, 山藤孝介)